

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根付くホーム作りを理念に掲げている 2ヶ月ごとの地域推進会議の実施	○	町会長、民生員さんのおかげで地域の行事に参加させていただき、いつも気にかけて頂いている。今後ホームで地域に貢献できる事はないか微力ではあるがお力に少しでもなりたい。ホーム行事にも参加して頂きますます交流を深めて行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念を掲げ、ユニット目標、個人目標を掲げている。毎月の目標も掲げチームワークを図っている。	○	今後も年間ごとのユニット目標、個人目標を掲げ、目標設定後の評価、個人面談を実践しよりチームワークをよくしたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム理念を玄関、ユニット目標をホールに掲げ見やすい場所に掲示している。	○	推進会議資料に毎回掲載し、なお周知を図れるようにしたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の行事には声を掛けて頂き「しめ縄作り」「しめ縄お披露目」「お神楽」等参加させていただいている。「夏祭り」には地域の協力により「ねぶた囃子」「お山参詣」を披露していただき交流を深める事ができた。ご近所の方からはお花を頂くなどいつも気にかけて頂いている。ボランティアの受け入れもしプライバシーへの配慮の説明をしている。	○	ホーム行事をお知らせし地域の方達と交流できるようにしている。玄関にも気軽に立ち寄れるような看板を下げ交流することに努めている。キャラバンメイトメンバーではないが機会があったらぜひ活動に参加させて頂きたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	評価内容、改善内容を周知しホーム全体で取り組んだ。
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	推進会議記録を参加メンバーではない家族様へも配布しホームの取り組みを理解していただけるようにしていきたい。
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	広報誌の配布、外部評価結果を提出し行政との連携を図って行きたい。
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	必要と思われる家族に情報提供し活用できるよう支援していきたい。
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	虐待は暴力だけではなく、言葉、態度、無視等も虐待に入ることを学ぶようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族の時間に合わせ何度でも説明に伺っている。 退去時も十分に説明を行い不安を生じないように配慮している。	○	退去後も見舞い、訪問でなるべく繋がりを持ち続けられるようにしていきたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、本人よりの苦情は職員間で話し合い運営に生かしている。 一对一の時間をなるべく作り話やし、聞きやすい雰囲気づくりを心がけている。	○	苦情の言える、出せるホーム作りを確立させたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	季節毎の広報誌で近況報告を実施。 はがき、電話での近況報告をしている。 状態変化があったときは家族に連絡し家族の要望も取り入れ対応している。 面会時「小遣い帳」を確認していただきサインを頂いている。	○	提供内容に変化があった場合は報告と同意書を記載していただいている。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には苦情処理システムの説明をし、常に玄関に目立つ色の用紙でシステムがあることを掲示している。	○	家族には面会時前回と比べて変わった事はないか、希望、要望はないかお聞きしている。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見は反映されている。	○	事務所会議を多く設けより運営に反映させていきたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1, 2F職員の応援、休日職員の確保など職員の理解を得ている。	○	ホーム近辺順での緊急連絡網があり緊急時の対応は可能となっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の新しい配置時は事前回覧、紹介を行い理解を得ている。 引継ぎも詳細に行っている。	○	移動、配置換え時はユニットへの体験、マニュアル、インフォメーションカードで周知を図っている。
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員受け入れ時は評価項目があり1週間、1ヶ月、3ヶ月で評価、面談をしホームに根付く職員作りをしている。研修参加後は伝達研修を行い報告会を実施している。	○	なるべく多くの研修に参加させ意欲的に取り組んでいけるようにしたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームへの見学、他ホームよりの見学を受け入れ交流を図れるようにしている。	○	ホーム交流学習会をやって行きたい。 東青森地区GHの交流会を設けたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間、場所を確保できている。 職員の提案、思いを形に出来るようなシステム作りをしている。 職場外での交流も深めている。	○	得意項目、力量に配慮し業務体勢作りをしていきたい。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	病欠後の職場復帰、家庭環境に配慮したシフト作りをしやりがい、働きやすい環境作りをしている。	○	産休、育児休暇後のバックアップ体制を整えたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族と話を出来る機会を作り何度でも訪問に伺うようにしている。本人の生活歴、こだわりを尊重したケアを心がけていることも説明している。	○	アセスメント後は報告文にて1, 2F全職員が周知できるようにシステムにしている。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人と何度も話し合うようにし、より本人が尊重できる生活が送れるよう配慮している。困難事例は地域包括センターに相談している。前ケアマネとの連絡を図っている。	○	前ケアマネへの事後報告をしていきたい。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメント時から本人の意向、家族の思いを受けとめ急激な環境の変化で不安、心配をあおらないようにしている。	○	話しやすい雰囲気づくりをし、なるべく要望に答えるようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自宅にいた時となんら代わりのない生活が出来るよう配慮し、本人らしい生活が出来るよう支援している。役割作り、得意なもの、好まないもの等を事前に調査し把握した対応を心がけている。	○	個々に主役になれる場作り、他入居者との仲間作りを心がけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームで解決しようと思わず家族の意見、言葉を大事にしている。 面会時は些細なことでも報告させていただき喜怒哀楽を共有している。	○	キーパーソンのみならず本人との位置関係を把握し本人を支える関係を築きたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	キーパーソン以外の家族へも近況報告をはがき、広報誌発送にて報告し喜んでいただいている。 知人、姉妹宅に会いに行ったり良い家族関係を築いていただいている。	○	一年に一度でも家族宅への外泊を支援したい。 (レベル的に可能な方)
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺参り、墓参り、銭湯、野球観戦、病院見舞い等へ出かけ支援している。	○	ビデオ、写真、新聞での馴染みの場所の情報提供をしたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人間関係を把握し食席等の配慮をしている。 トラブル時は気分転換の介入をしている。 役割づくりをし全員が主役になれる場作りをしている。	○	他GHとの交流を深め新たな仲間作りをしていきたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転院時はホームで応援に入り、家族の相談へも応じている。	○	死亡、転院退去時は転院先への訪問、年賀状で関係を継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に合わせた起床、就寝時間があり個人の生活スタイルを尊重している。困難時は家族からの情報をお聞きし本人の意思が尊重されるようにしている。	○	担当職員によるセンター方式でのアセスメントを検討。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他入居者との会話の中からも生活スタイルの把握、本人の意向を察知できるようにしている。担当職員の関わりを重視している。	○	担当職員によるセンター方式でのアセスメントを検討。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムを把握できておりケアプランにも反映されている。	○	ケアプラン（3）（4）の記載を担当職員に記載してもらう。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員によるモニタリング、他職員とのサービス担当者会議等ケアマネのみならずみんなの意向が反映されている。	○	職員間でもレベルの差があり今後の支援が必要。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランは3ヶ月の見直しとなっているが状態に変化があったときは随時作成しなおしをしている。	○	モニタリングは現在3ヶ月としているが1ヶ月ごとの見直しにしたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関する学習会、その都度指導等している。	○	ケース記録の見直しを検討したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	知人への面会、姉妹宅への外出、趣味に関する外出等個別に支援している。 キーパーソン以外の家族の方との手紙、はがきでの近況報告の実施。	○	平成20年以降は短期入所を受け入れできるようにしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる活動があり、入居者様は楽しみにしている。 図書館より本を借りてきている。 地域駐在所の訪問によりホームの存在を知っていただき協力体制は出来ている。	○	本年度は市文化祭に出席し地域資源を活用したい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所と連携し空き状況、緊急入居情報を公開している。 理容サービスの訪問を受け入れている。	○	行政で行っているサービス自体をあまり知らない のでGHにしながら受けられるサービス事態を勉強していく。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	GHに居ながらにして使えるサービス情報を提供してもらっている。	○	困難事例時も協力を得られ、相談できる体制になっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	受診時家族の都合がつく場合は同行にてDrとの連携も必要と考える。
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	職員との学習の場を設けて行きたい。
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	医療関連の学習会を開催したい。
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	退院時家族と一緒にDrからの申し送りをお聞きし連携を図りたい。
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ベッド、サイドレール、エアマット等の購入方法、準備方法を見直したい。
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	ユニットに固定されずオールマイティーに対応できる職員の資質作りをして行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>入居時家族写真、なじみの道具、家具などを持参して頂き見慣れたものがあることで少しでも気持ちが安らげる配慮をしている。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>出来る限り入浴、排泄介助時は同姓介助を心がけている。</p>
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>家族のような接し方になることもあるので言動に気をつけるようにする。</p>
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>職員配置に余裕がないと業務優先となりうるので日頃の職員の健康管理、ストレス回避等自己管理の徹底をさせたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>入居時理、美容に関しての情報をいただき本人の意思を尊重している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>行事メニュー時は入居者様と一緒に買出しにいき対応している。</p>
52	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>糖尿病の方もいるので糖分の管理をしている。</p>
53	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>経済面も考え本人の納得の上考慮していきたい。</p>
54	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>入浴時間、曜日が決められているので改善していきたい。</p>
55	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>明かりの漏れる居室暖簾の検討をしたい。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>役割の持ちすぎでトラブル、攻撃も見られるので配慮していきたい。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時入居者様に支払いをしていただき入居費引きだし、支払い時確認していただいている。	○	小遣い出し入れ時の確認を一緒に出来るようにしたい。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を見て散歩、徒歩での買い物に出かけている。	○	車椅子の方には2名介助で出かけている。団体、遠出を好まない方へも配慮している。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブ行事時希望を取り入れ遠方に出かけている。	○	普段からコミュニケーションを図り行って見たい、又行きたいところを聞き状況を把握している。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族より電話が可能なのかお聞きし時間対等配慮居しかけていただいている。	○	電話、手紙で気持ちを伝えることが出来るよう支援していきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	快く受け入れ、お帰りになる祭もお見送りし又面会に来ていただきたい旨をお伝えしている。	○	家族の宿泊事例はないが対応していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。	○	「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」を準備している。緊急時は了解を得た対応としたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不必要な施錠は誤解を招くことを周知している。	○	無断外出時の緊急マニュアルを整備している。
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事務所内にこもらない、ホールを無人にしないなど対応をしている。	○	今後も入居者様に配慮した対応としていきたい。
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手の届かない、施錠が可能な場所への保管としている。	○	マニュアルに添った取り決めをし、安全な場所への保管をしている。
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書は全職員が見れるように保管し、職員会議時に事故症例を出し学んでいる。	○	ひやりはつとが整備されていないので対応したい。
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを常に常備し周知を図っている。救急救命講習を受講している。	○	新人育成として入社時は消防本部で受講してもらっている。
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。	○	夜間を想定した訓練が行われていないので秋に実施したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時状態報告をし理解を得ている。	○	想定できないものもあるので日頃の家族とのコミュニケーションを密にしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態変化時は職員間の情報共有をはかり記録にも残している。家族連絡も行っている。	○	夜間でも緊急連絡網で対応できるようにしている。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はケースの目につく場所に保管し薬内容、副作用を周知している。薬の変更時はケースと申し送りに残している。	○	副作用の関心、理解を深めて行きたい。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表で排便パターンを把握し一日の水分量も観察し自然なお通じを心がけている。	○	便秘気味の方には腹部マッサージ、足上げ歩行を日課に取り入れている。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施しチェックしている。仕上げ、磨きの残しの介助を行っている。夜間は洗浄剤を使用している。	○	個々にあったブラシ、歯磨きこを使用いただき週一回口腔ケアグッズの消毒を行っている。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が管理しカロリー計算できている。水分量チェックも行い摂取目安をチェックしている。	○	2ヶ月ごとの栄養士との話し合いがあり希望を取り入れてもらっている。終了後会議録にし周知している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを常時携帯し周知を図っている。 市からのお知らせ文も回覧し周知している。	○	季節毎の感染症に関しては学習会時に学んでいる。
76 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン衛生管理表にて毎日夜勤帯で衛生管理を行っている。	○	食事作り字のエプロン、バンダナの装着を義務付けている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは菜園、花を植え家庭の雰囲気を出している。	○	「お気軽にどうぞ」の看板も設置し入りやすい雰囲気を作っている。
78 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾りつけ、花を飾り季節を感じられるようにしている。	○	夜勤帯は2Fよりの足音が響くので履物を変え音が響かないよう配慮し対応している。
79 ○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙場所があり時間を決め対応している。 リビングがあり食事後くつろげる空間がある。	○	お互いの部屋を行ったり来たり出来るよう配慮したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当職員が入居者様に合った居室作りをしている。 入居時なじみの物など持参していただけるようにしている。	○	居室入り口がみな同じなので居室が分からなくなる方へは目印になるようなものを付け対応している。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	SHS工法により24時間温度差がなく温、湿度が管理できている。	○	隣家と接近している為、下水の臭いが気になることがある。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが設置されている。車椅子は常時つかるものを準備している。	○	車椅子は常時使わないが緊急時のために整備をしておきたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、浴室が分かるように明示市混乱を招かないようにしている。	○	居室入り口には表札があり混乱を招かないようにしている。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に木を植え入居者様が毎朝みずやりをする夜が日課となっている。玄関に縁台があり休息できるようにになっている。	○	花壇の草取りも日課となり作業をしながら成長を楽しんでいる。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現在の所、地域とのよりよく、より深い関係作りに特に力を入れております。